

FP Topics = 知らないと損する年金の改正 = 2022年1月号

早くも1ヶ月が過ぎ去ろうとしています、オミクロン株は猛威を奮っています。感染者数はとどまることを知りません、経済の停滞が心配されますね。コロナと経済の特効薬を期待したいところですが、一歩ずつ進むしかないのかもしれないかもしれません。

今月は年金シリーズの最終回として、2022年4月以降に施行される年金等の改正について特集してみましたと思います。

年金や税金などは小難しいことだらけですが、知らないことで損をしないようにしたいものです。まだまだ厳しい状況ですが頑張っていきましょう！

= 主な改正事項 =

2022年4月～

1. 老齢年金の繰り上げ減額率の変更
2. 老齢年金の繰り下げ上限年齢の引き下げ
3. 賃金の低下に合わせて年金額を改定
4. 在職老齢年金の見直し
5. DB・DCの受給開始年齢の引き上げ
6. 個人型確定拠出年金 (iDeCo) の受給開始年齢の選択肢が拡大

2022年10月～

7. 厚生年金保険の加入対象の拡大

★ 具体的な改正の内容 ★

1. 老齢年金の繰り上げ減額率の変更

原則65歳から受給開始する、老齢年金を早めに繰り上げて受給する場合、従来では1ヶ月につき0.5%が減額されていました。改正後は0.4%に緩和されます。60歳から受給する場合、30%→24%の減額率となります。

受給開始年齢	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳
減額率	-24%	-19.2%	-14.4%	-9.6%	-4.8%	0%

2. 老齢年金の繰り下げ上限年齢の引き下げ

原則65歳から受給開始する老齢年金を遅らせて受給する場合、75歳まで遅らせることが可能になります。現行70歳までですが、人生100年時代といわれる潮流に対応する改正です。75歳まで遅らせて受給すれば84%の増額になります。

受給開始年齢	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳
増額率	+8.4%	+16.8%	+25.2%	+33.6%	+42%
受給開始年齢	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳
増額率	+50.4%	+58.8%	+67.2%	+75.6%	+84%

3. 賃金の低下に合わせて年金額を引き下げ

年金は、毎年原則的に物価や賃金の変動に合わせて改定を行っています。2020年度までは、賃金のみがマイナスとなった場合、年金額を据え置いていました。しかし、少子高齢化社会の影響を受け賃金が物価を下回った場合、原則どおり年金額は下落率に応じて引き下げられることになりました。

4. 在職老齢年金の見直し

特別支給の老齢厚生年金 (60歳～64歳) を受け取ることができる人で、厚生年金に加入し働いている人 (会社員等) の年金カットラインが、65歳以上の在職老齢年金と統一されます。

《現行》

年金 (1ヶ月) + 給与 (ボーナス含む) = 28万円超

《改正後》

年金 (1ヶ月) + 給与 (ボーナス含む) = 47万円

年金を受給しながら働く在職老齢年金のカットラインが、28万円から47万円に緩和されます。現行28万円を超えた場合、一定の計算により、年金は減額されていました。

改正後47万円を超えなければ、年金は全額受給することができます。



4.在職老齢年金の見直し（続き）

65歳以上の老齢厚生年金を受け取ることができる人で、継続して厚生年金に加入し働いている人は、原則70歳まで厚生年金保険料を納付します（退職した場合は退職時まで）。

《現行》

65歳～70歳までに納付した厚生年金保険料部分は、70歳到達時まで受給する年金額に反映されません。

《改正後》

納付した厚生年金保険料は、1年ごとに年金額を再計算する仕組みに改正されます。改正により年金額は毎年増額することになります。

5. DB・DCの受給開始年齢の引き上げ

【確定給付企業年金】DB

現行の受給開始期間は60歳～65歳の間となっていますが、会社の規約で規定すれば70歳まで可能となります。

【企業型確定拠出年金】DC

現行の受取り開始時期は60歳～70歳の間で選択可能ですが、改正後は上限75歳まで上げられます。また、加入可能期間も2022年5月から65歳未満→70歳未満まで可能となります。

6.個人型確定拠出年金の受給開始年齢の選択肢が拡大

個人型確定拠出年金（iDeCo）の受給開始年齢の上限が5歳引き上げられ60歳～75歳までとなります。また、2022年5月から65歳まで加入可能となります。

7.厚生年金保険の加入対象の拡大

2016年10月の改正により、厚生年金保険の加入基準が大きく改定されました。

下記基準のすべてに該当する者は、厚生年金保険に加入します。今回の改正により⑤の基準は501人以上→100人超へ改定されます。

①	週20時間以上働いている
②	賃金が月額88,000円以上
③	1年以上働くことが見込まれている
④	学生ではない
⑤	被保険者数が501人以上 → 100人超の企業

～今月の山便り～

岩壁を斜めに下っている岩棚は、約30メートルほどの距離に見えました、その先はまた樹林帯のようです。覚悟を決め、ゆっくりと一步を踏み出しました。心臓が口から飛び出しそうです。まだこの時は本格的な登山（岩登りや沢登りなど）を卒業したばかりで、体力気力とも若干は残っていたのかもしれない。

しかし、今まで経験したことのない危険な状況に、緊張感が張り詰めます。はあ～～ふう～～はあ～～ふう～～～という自分の呼吸音に緊張が増幅します。岩壁に正対し、わずかな岩棚に立ちこみ（つま先立ち）ますが、濡れた岩肌にスリップしないよう細心の注意をはらいます（蟹の横ばい歩きです）。

すると、突然上から何かに掴まれたような感覚で、足を出せなくなりました。緊張感から全力で集中しており、まったく無の状態になっていたのでしょうか。自分の周りを真空状態のようにも感じていました。我に返り状況を確認すると、どこからかせり出している木の枝に、トレッキングポールが引っかかっていたのです。

この山行きでは、重いザックを担いで長距離を歩くことから、トレッキングポールを持参していました。両手を使いたい場所では、そのトレッキングポールを背中とザックの間に差し挟んで携行します。その先端は頭より上に位置します。その先端部分が木の枝に引っかかっていたのです。

バランスを崩すと滑落する危険があります。辺りはうす暗くガスも上がってきており、どれくらい高度があるのか見当がつきません。両足・左手・頭・両ひざを岩壁に上手くバランスさせ、右手だけで枝から逃れることに必死になりました。なんとか脱出し、乱れた呼吸を整え先へ進みます。

行動中は必死の想いで動いていることから、いろいろな事を瞬時に判断できていたのかもしれない。がしかし、あとから冷静に考えると、恐ろしいことのオンパレードです。もし足元が途切れてしまっていたら、岩壁の角度がもっと立ってきたら……

時間の感覚はまったく無く、気が付くと岩壁を抜けていました。もの凄く荘厳な場所に出たのです。光が満ちている場所という感覚でした。あれ？俺もう死んでる？？？と錯覚するくらい……